創業20周年 外国人材の育成・紹介・支援

トップに聞く

ガイア国際センター

楠田祐里社長 壮史専務 愛取締役

新社長に楠田壮史氏

株式会社「ガイア国際センター」は、豊橋市に本社を構える外国人材専門の人材紹介会社であり、特定技能外国人の登録支援機関でもある。「愛・知・反省・発展の四正道に基づく国際人材の育成」を理念に掲げ、世界7カ国と連携。日本での就労を希望する外国人材の教育・育成から、企業への人材紹介、就労後の生活・定着支援までを一貫して手掛けている。

2026年、同社は創業20周年の節目を迎える。これを機に創業者から次世代へ経営のバトンをつなぎ、専務取締役の楠田壮史氏が代表取締役社長に就任する。楠田祐里社長、楠田壮史専務、楠田愛取締役の3人が、これまでの20年の歩みを振り返るとともに、ガイア国際センターが描くこれからの展望について語り合った。

（聞き手は東愛知新聞社の芦沢典幸社長）


楠田社長

—ガイア国際センターに社名を変更する前は、「たびきちインターナショナル」として創業された。起業を志したきっかけは。

楠田社長　夫が病気を患い、小学生だった2人の子どもを支えていかなければならない状況になったことがきっかけです。家族を守り、生活を支えていくために、自分の一番の強みであった旅行業で起業することを決意しました。

—15年前に社名を変更された経緯を教えてください。

楠田社長　当時、東日本大震災の影響で日本全体が自粛ムードとなり、旅行のキャンセルが相次ぎました。また、時代はインターネットへと大きく移り変わり、旅行代理店を取り巻く環境はますます厳しくなっていました。

そんな苦しい状況の中、豊橋市の先輩経営者から「これから日本は少子高齢化の時代を迎える。長く日本にとどまり、活躍してくれる優秀な外国人材が必要になる」と助言をいただきました。

ちょうど同じ頃、弊社で添乗講師としてアルバイトをしていた国立技術大学の留学生の就職を支援する機会があり、就職先の紹介やビザ取得のサポートを始めました。それが、外国人材を支援するという新たな事業の可能性に気付くきっかけとなりました。

しかし、新しい事業の立ち上げは一筋縄ではいきませんでした。中でも一番苦しかったのが資金繰りですね。その時に支えてくれたのが、飲食店を営む弟でした。「お姉の事業は、必ず世の中に必要になる」と言って金銭面でも支えてくれました。

今だから言えますが、あの時、弟の支えがなければ、会社はとっくに倒産していたと思います。多くの人に支えられながら、旅行会社から外国人材業へと、少しずつ歩みを進めていきました。

—ガイアを立ち上げる際に、大切にしてきた思いはありますか。

楠田社長　これまで本当に多くの方々に支えていただきました。その中でも、私に最初に大切な気付きを与えてくれたのが、娘の愛です。

フィリピンの大学とインターンシップ事業を構築していた頃、当時マレーシアに留学していた愛をフィリピンへ同行させたことがありました。当時の私は、とにかくあすのメシを食べていくことに必死で、事業を軌道に乗せることしか考えられないような状況でした。

そんな私に、同行した愛が「お母さん、これは天使の仕事だよ」と言ってくれたんです。その言葉を聞いた瞬間、私の仕事に対する考え方が180度変わりました。

これは単に人を紹介する仕事ではない。一人の人生を変えることができる。その人の人生を豊かにすることができ、とても尊い仕事なんだと。その時、初めて心から実感することができました。

あの時の愛の言葉と、その時に感じた思いは、今でもずっと私の中にあります。そして、その思いを大切にしながら、今日までガイアを続けてきました。


楠田専務

人材紹介業 本質は教育

—現在の外国人材事業について伺います。現地で教育してから外国人材を送り出す時に大切にしていることは。

楠田専務　ガイアでは、「人材紹介業の本質は教育である」と考えています。人材を紹介するだけであれば、海外のエージェントから紹介された人材を、そのまま日本企業へ橋渡しすることもできます。しかし、それだけでは企業と外国人材との間にミスマッチが生まれてしまいます。私たちが目指しているのは、単に「人を紹介すること」ではありません。その人が日本で活躍し、企業から必要とされること。そのためにガイアでは、海外の各国に教育を担うスタッフを配置し、独自の教育体制を構築しています。特に大切にしているのが、内定から日本へ入国するまでの期間です。この期間に、日本語だけでなく、仕事に対する考え方や姿勢、さらには就職する企業の理念まで共有します。そして「このような人材であれば、この会社で長く活躍できるのか」を企業の皆様と一緒に考えながら、人材を育てています。その中でも、私たちが最も大切にしているのが「心の教育」です。感謝する心、学び続ける心、間違えた時に「ごめんなさい」と素直に反省できる心。そしてどんな時でも前向きに、積極的に考える心。こうした心を育てることが、長く活躍できる人材をつくると考えています。「1年を変えるために、日本語を磨く。10年を変えるために、技術を磨く。人生を変えるために、心を磨く」。知識や技術を身につけるだけではなく、その人の心を育て、人生まで豊かにしていく。それが、ガイアが大切にしている教育理念です。


楠田取締役

広がる海外パートナー

—海外のパートナーは、どのように広げてきましたか。

楠田社長　現在、海外で教育機関を直接運営しているのは、ベトナム、ミャンマー、スリランカの3カ国です。そのほかにもインドネシア、カンボジア、ラオス、インドと連携し、各国で教育体制を構築しています。海外のパートナーを開拓する上で、私が大切にしてきたのは「本当にお互いを信用できるか」ということです。ご縁をいただいた国には、私自身が何度も何度も足を運び、現地の方々と直接会って関係を築いてきました。学生が暮らす地域にも実際に出向きます。厳しい地域であっても直接足を運び、日本へ送り出す子どもを心配するご両親に「私たちガイアがいるから安心してくださいね」とお話ししてきました。大切なお子さんの人生を預かるわけですから、ご家族との信頼関係も非常に大切だと考えています。そして、パートナーとなる相手とガイアの理念を共有できるかどうかは、一度や二度会っただけでは分かりません。何度も会い、何度も話すことで、少しずつ見えてくるものです。だからこそそこは慎重に見極めています。この仕事は、利益だけを追い求めていては成り立たないと私は思っています。外国人材一人ひとりの人生、そして受け入れてくださる企業の未来にも関わる仕事です。だからこそ、理念に大きな違いがあると分かった場合には、たとえ取引があったとしても、ためらわずに契約を終了する。それくらいの覚悟を持って、海外のパートナーと向き合ってきました。

人を育てる会社を拡大

—代表交代にあたり、社長の思いをお聞かせください。

楠田社長　まず「愛・知・反省・発展の四正道に基づく国際人材の育成」というガイアの理念は、これからも決して変えてほしくないと思っています。単に人材を紹介する会社ではなく、「人を育てる会社」として、これからもっともっと事業を広げていってほしい。人を育てるとはどういうことなのか、教育とは何なのかを深く考え、不惜身命の思いで取り組んでいってほしいと願っています。

私は57歳で社長を交代します。周囲からは「まだ早すぎる」と反対されることも多くありました。しかし、世界を見れば、20代、30代で会社を立ち上げ、大きく発展させてきた経営者がたくさんいます。

私自身、20年間会社を経営してきた中で、どうしても守りに入ってしまう部分があります。時代はものすごいスピードで変化しています。その新しい時代を切り拓いていくのは、次の世代だと思っています。


打ち合わせをするスタッフ、外国人スタッフもいて安心

壮史も愛も、まだこれから40年走ることができます。2人には、この人生でまだまだ果たすべき大きな使命があると思っています。親である私が、2人の可能性や発展を止めてはいけない。

だったら、元気なうちにバトンを渡そう。困った時には私も支えることができる今だからこそ、任せよう。そう考えて、20周年という節目に代表を交代することを決めました。

ガイアがこれまで大切にしてきた理念を受け継ぎながら、私にはできなかったことにもどんどん挑戦して、次の20年、さらにその先へと発展させていってほしいと思っています。

事業承継 次の10年へ

—楠田専務と楠田愛取締役は、今後10年をどのように描いていますか。

楠田専務　私たちの事業は、大きく「教育」「紹介」「支援」という三つで成り立っています。そして、この一つひとつに大切な役割があります。

これからは、それぞれの事業をさらに強化し、細分化しながら、新たな事業にも挑戦していきたいと考えています。

人の心と志を育てる教育・研修事業、企業と人材とのミスマッチを徹底的になくしていく人材紹介。そして、仕事だけではなく、その人の人生にまで寄り添う支援。この三つをさらに磨き上げていきます。

そして、この先のガイアが応援するのは、外国人材だけにとどまりません。私たちが本当に応援したいのは、「頑張ろうとする気持ち」です。

自分のためでもいい。家族のためでもいい。会社や仲間のためでもいい。「頑張りたい」「もっと成長したい」という思いを持つ人に、ガイアが寄り添い、伴走していく。そんな会社にしていきたいと思っています。

そして、母から託された経営理念は絶対に変えません。「愛・知・反省・発展の四正道に基づく国際人材の育成」という使命を受け継ぎ、人を育てることに不惜身命の思いで向き合っていきます。

楠田取締役　私はこの仕事に携わってからずっと、「民間のJICAのような存在になりたい」という思いを持っています。

この事業を単なる営利事業として捉えるのではなく、人への支援や教育を通して、公益性の高い活動をもっと広げていきたいと考えています。

外国人を取り巻く制度や入管法は目まぐるしく変化しています。そうした変化にもいち早く対応し、日本で働く外国人にとっても、受け入れる企業にとっても、困った時に「ガイアに相談すれば大丈夫」と思っていただける存在でありたい。

国籍や立場を超えて、誰もが安心して相談できる場所としてこれからのガイアをつくっていきたいと思っています。

—最後に、外国人材の採用を考えている企業へメッセージをお願いします。

楠田社長　人手不足で悩んでいるのであれば、まずは踏み出して挑戦してみてほしいと思います。

ただ、外国人材を単なる「労働力」として捉えて採用するのではなく、会社の未来を一緒につくっていく大切な仲間として迎えてほしいです。

これまで約130社の取引先企業と関わる中で、外国人材を大切な仲間として受け入れ、その力を生かしている企業が成長していく姿を数多く見てきました。外国人材には、企業を変え、発展させていく大きな可能性があると実感しています。

だからこそ、最初から「外国人だから」と壁をつくらず、一人の人間、一人の仲間として向き合っていただきたいと思います。

株式会社ガイア国際センター
Gaia International Center Co.

〒441-8003
愛知県豊橋市小向町下野11

TEL 0532・21・8088
HP https://gaia-2006.com/

海外法人
ベトナム法人 GVセンター
所在地：クアンチ省（ベトナム中部）
ミャンマー法人 GMセンター
所在地：ヤンゴン
スリランカ法人 ガイアランカ
所在地：ガンパハ